

令和6年度 園 評 価

(園名) 大垣市立荒崎幼保園

【園目標】 心豊かにたくましく生きる子	【前年度の成果と課題】 ○年間を通して年齢に合わせた体づくりをする。登園後毎日継続して室内でもできる運動遊びに取り組む。 ○友達とのかかわり方や自分の気持ちの調整の仕方を身につけることができるよう、発達段階を理解した援助やかかわり方を考え実践する。
------------------------	--

4段階評価

○保育者☆関係者

観 点		短期目標(評価項目)	自己 評価	保護者 評価	評価及び意見の概要
子ども への 保育 ・ 教育	身体的 発達	保育者や友達と一緒に思い切り 体を動かして遊ぶことを楽しむ。	3.9	3.7	○戸外では鬼ごっこ遊び、縄跳び遊び、ボール遊びなど、体を思いきり動かして遊ぶ時間を設けた。室内ではリズム遊び、サーキット等の運動遊びを継続して取り入れることができた。 ○体を動かすことが苦手な子には、様々な経験が少しずつできるよう、保育者も一緒に行い、楽しむ気持ちをもてるようにした。 ○一人一人の発達に配慮しながら援助をし、子どもがやってみたいと思える活動を考え、自己肯定感を育めるようにした。 ☆先生方の指導がきめ細く、常に笑顔で元氣よく子どもたちに接する姿勢を感じる。先生方が楽しそうな姿を見せていることが、子どもたちの『やってみよう』に繋がっていると思う。 ☆子どもも先生も、一緒になって外で遊び、体を存分に動かしていた。熱中症対策、環境面への配慮も素晴らしい。
	社会的 発達	自分の気持ちの調整をし、 友達と遊ぶことを楽しむ。	3.6	3.6	○トラブルがあった時は、保育者が互いの気持ちを受け止め、必要に応じて代弁したり見守ったりして折り合いがつけられるような声かけをした。クラス全体の中でも話し合える機会を取り入れ、みんなで考える機会を設けた。 ○子どもの言葉に耳を傾け、子どもの気持ちに寄り添い、受け止めながら保育にあたった。そうすることで、少しずつ自分の思いを言葉で伝えられる子が増えた。 ☆一人一人の子どもに接する時に子どもの目線に立ち接しており、安心感がもてる。 ☆先生が子どもに寄り添って話を聞こうと意識してみえるところが良い。一日を園で過ごす子どもにとっても、預ける親にとっても、安心安全な場所であることが素晴らしい。
	精神的 発達	自分の好きな遊びを見つけ、工夫 したり試したりして継続して遊ぶ。	3.6	3.6	○子どもの姿から興味関心を探り、必要な道具や材料を子どもが自分で出し入れできるよう環境を工夫して設定した。 ○継続して遊べる時間の確保をし、遊びの振り返り時間には子ども同士意見を伝え合う機会を設け、子どもたちが夢中になって遊べるようにした。 ○静と動と様々な遊びを取り入れ、複数の中から選択できる場面を増やすことで、自己決定しながら遊べるようにした。 ☆遊び道具だけでなく、自然物や廃材等をストックし、いつでも手に取ることができる環境が設定されていることは、子どもの興味・関心を引き出し想像力を伸ばしていると思う。 ☆子ども一人一人の思いを大切にしており、それが子どもたちの自発的行動に表れていた。
家庭 保護者・ 地域 の 支援 等	保護者 支援	家庭と連携して規則正しい 生活リズムを身に付ける。	3.9	3.6	○生活リズムカードを用いて、早寝、早起き、朝ごはんの大切さを子どもたちに伝えながら、正しい生活リズムを身に付ける大切さを伝えていった。 ○生活面に関して個人差が大きいので、園での様子や本人の困り感を具体的に保護者へ伝え、家庭と一緒に取り組んでいけるよう努めた。 ●生活リズムの大切さを保護者の方に理解してもらうことが難しかった。 ☆家庭教育については保護者への伝え方など配慮や苦労もあると思うが、子どもにとっては生活リズムを身に付けることは大変良いことなので、継続して取り組まれると嬉しい。 ☆引き続き生活リズムカードを利用することによって、規則正しい生活習慣を身につけていけるとよい。
	地域 との 連携	小学校や地域とのふれあいを 通して親しみをもつ。	3.2	3.4	○小学生や小学校の先生に保育者が見本となり挨拶をすることで、子どもたちがすすんで挨拶できるようになった。 ○5歳児は運動会参加やプール見学をさせていただき、小学校に期待や憧れの気持ちをもつことができた。 ○高齢者福祉施設を訪問し、高齢者の方のかかわりをもつことができた。 ●小学生との関わりの場を増やしていけるとよかった。 ☆運動会での『追いかけて玉入れ』では、嬉しそうに小学生の後ろを追う姿が印象的だった。日頃からの交流の成果と思う。今後も併設の良さを生かして欲しい。
体 実 制 施 全 運 般 営	危機 管理	様々な災害に対応し命を守り切る 対応ができるようにする。	3.3	3.5	○地震、火災については、繰り返し訓練を重ねることで、落ち着いて避難できるようになってきている。 ○子どもたちの安全確保のため、災害の際に保育者同士の連携が取れるよう、常日頃からの話し合いを大切にしている。 ●防犯訓練、水害訓練なども、臨機応変に行動できるよう、繰り返し取り組めるとよい。 ☆いざという時の行動力は経験によって高められ定着するもの。今年度は8月の豪雨による被害もあり今後大切にしていけるべき課題だと感じた。 ☆防災は『これだけすれば大丈夫』というものではないため、常に情報をアップデートしていただくようお願いしたい。

【次年度に向けて】

- ・1日1回は、全身を使った遊びを取り入れ、自ら体を十分に動かそうとする意欲を育てる。年齢、発達に合わせた体づくりを年間を通して行う。
- ・異年齢交流や小学校交流を取り入れ、様々な活動を通して、お互いを思いやる心や、憧れをもつ心を育む。